

高師小学校の ESD 活動

<活動の概要>

本校では、総合的な学習の時間や生活科・社会科等で地域学習と行事とを関連づけた活動に取り組んでいます。地域素材である「人」「もの」「自然」に目を向け、地域から学ぶことにより、地域や学校のよさに気づき、誇りや愛着心を育み、人とのつながりを深めています。そして、自分たちが住む地域や身のまわりの事象、人々の生き方について関わりながら把握し、課題を見つけ、問題解決に向けて自ら動き出す子どもの育成を目指しています。

・活動の実際

① 地域に学ぶ活動（わたしたちの町再発見 3年）

3年生は例年、校区を見学する「わたしの町再発見」を行っています。校区で気になっている場所の中から見学地を決め、見学に行っています。本年度は「高師マップを作ろう」と題して、子どもたち自ら校区の自慢できるものを探しに出かけ、社会科で学んだことを生かしながらマップを完成していきました。さまざまな場所で、働く人の姿や、たくさんの人の思いに触れ、高師校区のよさを再発見できました。マップを作っていくなかで、「つくっている最中の町、ミラまちがあるよ」「ミラまちはこれからどんな町になるのかな」という気づきや疑問をもち、「ミラまち探検」に出かけました。「道が広いね」「電柱がないのはどうしてだろう」など、疑問に思ったことについて、ミラまちを手がける積水ハウスのかたに質問する機会をもちました。まちづくりの工夫について教えてもらった子どもたちは、「これからもっとすてきな高師になっていきそうだね。楽しみだな」という思いをもちました。完成したマップを発表する中で、「ぼくたちの校区にはこんなにたくさんの自慢できることがあるね」「高師のすてきなどころをもっと探してみたいな」という声が聞かれました。校区を愛する子どもたちが育ってきています。



大葉収穫に真剣に取り組む子どもたち



町づくりの工夫を見つける子どもたち

② 安心・安全な地域をともにつくる（防災「そのとき、どうする」 4年）

4年生は例年、「南海トラフ地震」を想定して、防災危機管理課のかたに防災や減災についての話を聞いたり、起震車体験をさせてもらったりしています。子どもたちは、「高師校区で大きな地震が起こったら町はどうになってしまうのだろう」「生活はどうになってしまうのかな」という思いをもち、地域の防災倉庫を見学したり地域の避難所について調べたりしたことを伝え合う活動をしました。子どもたちは、「災害時に自分たちにもできることはないかな」と考え、空き缶を使ったランプ作りや毛布で作る応急担架、ろ過装置や紙食器など、災害時に役立つ物について調べたことをまとめました。「調べたことをできるだけ多くの人に伝えたいな」と考えた子どもたちは、授業参観でワークショップを開き、保護者や地域の人々に向けて実演したり一緒に体験したりする活動を行いました。

大災害を想定し、自分事と考える自ら動き出す力と地域の人々とともに安全で安心な町をつくっていこうとする力を育みました。



泥水のろ過を実演する子どもたち